



学校だより No.7

令和8年9月29日

札幌市立福住小学校



『令和8年度 学力検査』本校の結果概要等のお知らせ

令和8年4月23日(木)に2～5年生を対象として『標準学力検査』を実施しました。本検査は、学習指導要領が求めている「確かな学力」について、個人や集団が、全国母集団のどこに位置するかを客観的に把握し、学校における児童への指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

札幌市では、「学ぶ力」を「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力」と定義付け、その育成を図っています。本校でも子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学び、他者との協働的な学びの充実を進めており、今回の学力検査の結果についても、全国平均との比較や各学年の領域別正答率の比較などを通して子どもたちの学力の定着度を分析し、本校の教育活動の充実に生かしていきます。

また、本調査により測定できるのは、学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解いただきたく存じます。なお、6年生が4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果については、別のお便りにて改めてお知らせいたします。

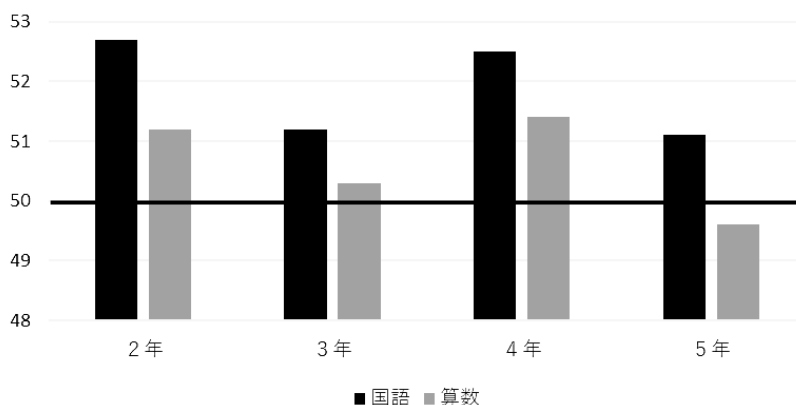
各学年の教科の検査結果

全国の偏差値平均を50とすると、国語科においては全ての学年が全国平均を上回っています。

算数科においても、2・3・4年生で全国平均を上回っており、学習内容の定着が見られる結果となりました。

2・4年生では一人一人の得点の差がやや大きく、二極化する傾向があるといえます。

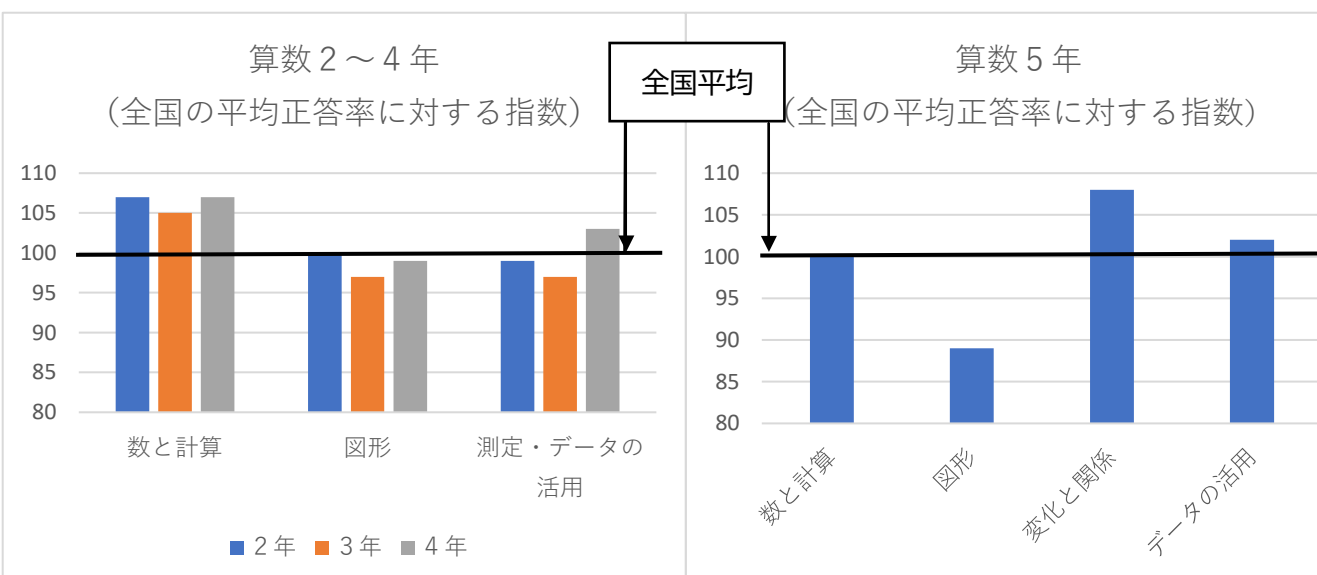
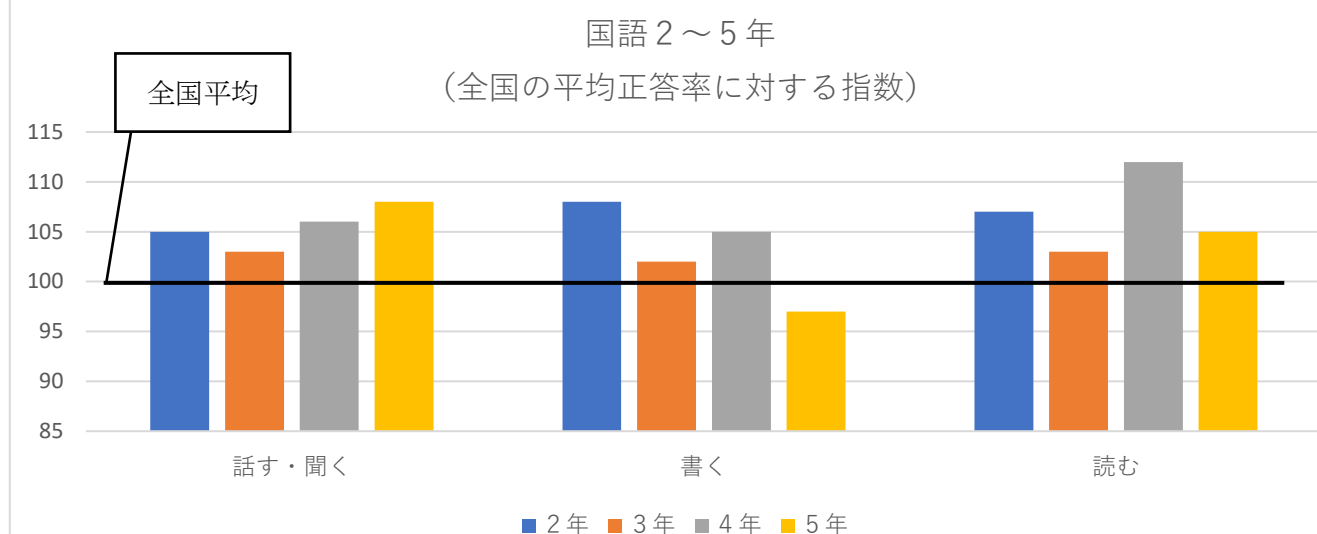
本年度各学年の検査結果



国語科においては、言語について考えたり表現したりすることを通して、日常生活や社会生活に結び付く言葉の力を育むことを目指しています。子どもたちが「何のために」学ぶかを意識しながら自ら学習に取り組むことができるよう、目的意識・相手意識をもって学び進めたいような題材を設定することや、国語科で身に付く言葉の力と他教科の学習や実生活との「つながり」を大切にしています。

算数科においては、小学校段階での学びを中学校数学にスムーズに接続するためにも、各学年での学習内容の定着度を高めることが重要であると考えます。9年間の学びを見通した系統性・連続性のある学習を実現するため、子どもたちが数学的な見方・考え方を働かせたり、他者の考えに触れることを通して自らの考えを広げたり深めたりする学習活動の工夫を進めてまいります。

各教科の領域別集計結果と改善の方向性



各教科・各領域の正答率の全国平均を 100 とすると、国語科の多くの領域において全国平均を上回りましたが、5 年生については、「書く」領域において課題が見られました。この結果を踏まえ、考えたことを文章にまとめたり、状況や目的に合った言葉で表現したりする場を設定し、書く力の定着を図ります。

また、算数科においては次のような実態が見られました。

2 年生については、「測定・データの活用」領域において課題が見られました。

3 年生については、「図形」、「測定・データの活用」領域において課題が見られました。

4 年生については、「図形」領域において課題が見られました。

5 年生については、「図形」領域において課題が見られました。

各学年の課題を踏まえ、日常の事象を数理的に捉え、論理的に思考する力を養うとともに、数学的活動の楽しさや算数のよさを実感する体験を積み重ねていく学習（算数を日常の事象と結び付ける活動、表や図、グラフなどからきまりを発見するなどの探究的な活動など）を推進してまいります。また、各学年で共通して「図形」「測定・データの活用」領域の正答率が比較的低かったことを受け、関連する単元の学習では具体物を活用した操作的・作業的な活動や、実際の数量を調べたり測ったりする体験的な活動を取り入れることを重視します。

10 月の個人懇談では、各御家庭と後期の学習や今後の家庭学習の進め方等について話し合い、学校と家庭の学習の接続がより確かなものになるよう、連携を深める機会にしたいと考えております。